



平成 29 年 9 月 23 日 (土)
2017 年 No.5 9 月号
横浜市立 新羽 中学校
☎542-1680 FAX 541-1038

【HP】 <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/nippa/> 【メール】 l2-nippa@edu.city.yokohama.jp

● 校長の授業見学日誌 2017 part 5 ●

～ 教室 TV でデジタル教科書を活用した英語科授業 ～

【1 年 3 組】英語科 土居 見音 先生

デジタル教科書を活用したあいさつ文の会話練習です。

My name is Kang Min-ho. I'm from Korea. など、隣の席の人同士で会話をします。元気に活発に発音しています。中学校の学習に少しずつ慣れてきている 1 年生ですが、聞く、話すなどの切り替えが上手になることが当面の目標だと思います。次に a と an のちがいについておさらいをします。名詞という単語は、数えられるものと数えられないものに分けられ、前者では、a book と an English book などの使い分けがあることを確かめました。不定冠詞のあとにくる単語の最初の文字が母音であるか子音であるかによる使い分けです。TV 画面に映した英文を見て、範読を聞き取り、単語の発音練習、アクセントなどを学びました。黒板への板書や先生の説明が始まると、よく集中して取り組みます。



【2 年 1 組】英語科 久野 哲史 先生



Chat Time (2 分間の英会話練習) では、Can you～の言い回しを～play the piano? ～cook miso-soup? などで練習し、Yes, I can. 等の受け答えをします。会話相手を席の移動で変えるなど、工夫しています。続けて、英文読解の学習で、デジタル教科書を活用します。TV 画面に、When I saw him today, he jumped up at me. By the way, we found a home for him. It's a home for lost dogs. などの文章が映っています。迷子犬のための家を探

している文章です。先生は、パソコン操作で、画面への書き込みを行い、By the way は、「ところで」という意味であり、It の内容は、前文の we found a home for him. を指していることなどを話します。全員の授業態度が素晴らしい。先生とのコミュニケーションがよくできていて、信頼関係が養われていることが自然と感じられます。2 年生としての成長を感じさせるきちんとした姿勢です。

【3 年 3 組】英語科 兵頭 律子 先生

本校の英語科では、今年度において週に各学年 6 時間ずつ、各学級 2 時間ずつ少人数授業に取り組んでいます。本時は、その少人数授業の中の一つです。教室で、17 程度の生徒が、順番に英文の暗唱テストに臨んでいます。残りの生徒は、他教室で久野哲史 先生より指導を受けて



います。教科書本文の Unit2 にある文章です。手には、本文、New Words、本文和訳の印刷されたワークシートを綴ったファイルが 1 冊。中に Reading Check Seat があり、暗唱結果によって先生からもらう 3 色のポイントシールを貼ります。完璧な暗唱は金色、和訳を見ながらの暗唱は銀色、本文を参照しながらの暗唱はピンクです。かなり熱心に、また教え合いながら順番を待っています。ちなみに、Unit2 本文は、**There are a lot of people from abroad in Japan. How do they see this country?** と始まる、外国の人々から見た日本というテーマです。楽しく、前向きに学ぶ姿勢が一人ひとりに見られて、心の穏やかさを感じる教室でした。

.....

♪ 本年度の合唱コンクールは、Y校講堂にて ♪

10月19日(木)文化祭2日目合唱コンクール会場が、今年度は横浜商業高等学校の講堂になりました。合唱コンクールは、ここ数年、神奈川県立音楽堂や神奈川県立青少年センターホール等を利用してまいりましたが、利用応募団体の増加に伴い抽選によって会場が確定するところから、残念ながら今年は当選できず、紆余曲折して前述の横浜商業高等学校の講堂をお借りできることになりました。



横浜市営地下鉄ブルーライン「新羽」駅から乗車した場合、13駅28分間乗車後、同線「蒔田」駅下車徒歩8分程度のところに、会場は位置します。運賃はICカードで片道329円です。会場使用にあたって、来場者は外履きから上履きに履き替えが必要です。また、会場内での飲食は禁じられています。1,000名が収容可能な2階席まで設置の講堂で、高等学校としても学校行事等に多面的に活用されています。

当日の予定では、9:35に講堂座席にて出席確認を行い、9:55には開会式、10:00に1年生の部、10:30に2年生の部、11:25に3年生の部がそれぞれ始まります。生徒の昼食については、新羽中学校へ戻って取ります。なお、生徒の復路は「団体乗車券」(学年費より支出)を使うため、個人ごとの運賃支払いは不要です。

では、保護者、地域の皆様のご来場を、ぜひお待ちしております。なお、会場使用上、ご協力いただきたいお約束事等もありますので、よろしく願いいたします。

● キャリア教育としての2年生《職場体験学習》 ●



社会的な生活を営むことにおいて重要な生活軸となるものの一つは、職業です。学校に行くよりは、働いて少しでも家計の足しになる方が家にとってはよっぽど望ましかった時代から、多くの人々が豊かな学歴を有しながら、なお職業選択の決断を足踏みする時代へ、日本社会は、戦後の70年間を振り返るだけでも激変しました。判断猶予が許容されるモラトリアム社会の出現は、社会構造と人間の精神構造の両面の変化がもたらしてきたといえます。フリーターやニートという用語が、社会的に定着して幾久しい。



しかし、今新たに労働環境の現状について、大きな課題が提示されています。正規、非正規という雇用形態の問題、男女雇用均等の実態、過労死ラインと呼ばれる過重労働時間の実情など、重苦しい話題が後を絶ちません。かつて、地方から東京への集団就職と呼ばれた一群の生徒たちの大移動は、社会の経済構造の変化（第1次産業から第2次産業へ）とともに、日本人

の生き方の大きな変容でもありました。消費経済が主流となった現在の社会は、従来の職業的な構成を崩し、企業の在り方を変え、AIの進化とともに人の労働形態をも変化させていくことが予言されています。

かつて、職人と呼ばれたものづくりの匠たちは、経験と修行の積み重ねによって手に入れた自分の腕を誇りに思い、自分のかけがえのない実人生を生き抜いてきました。少し頑固で融通が利かない「職人氣質（かたぎ）」というアイデンティティーを何物にも代えがたい宝としていました。池井戸潤氏の小説『下町ロケット』は、中小企業の町工場における優れた職人たちの奮闘記です。



生徒や学生であることは、現実の社会への着地を猶予された宙ぶりの天使に例えられることがあります。生きることは、働くことであり、食べることであり、毎日同じことを継続し、汗を流すことであることに気付くためには、百聞は一見に如かず。働く場所に行き、その場所の空気を体感し、職業人との現実的な接触を重ねることです。職業観を培い、将来の自分を考察するために、体験学習が有効に働くことを願います。



お世話になる地域の事業所の皆様方には、ご迷惑をおかけいたしますが、学校の授業の一環としての取組であることをご理解いただき、生徒たちにご指導いただいていることに、改めまして心から感謝いたします。

（写真は、昨年度実施の新羽中学校職場体験学習記録より。本年度も、9月21日（木）22日（金）の2日間で、地域社会の皆様方に大変お世話になっております。）

.....

● 部活動は部活道であるか？ ●

最終校時のチャイム後、帰りの学活が終わるとともに、早速に部活動が開始され、生徒たちのきびきびした行動があちらこちらに見て取れます。朝練習を加えれば、1日3時間は超える中学生の大きな生活軸になっている部活動。土曜日や日曜日など週休日には、練習試合、公式試合、コンクールなどが。学んでいるものは、先輩後輩の人間関係のけじめ、勝つことのみにこだわらない継続の力、感謝の気持ちであると思います。授業とともに、人としての自分づくりのための肥やしとなるのが、3年生引退時の大きな感慨を生み出すはず。与えられた環境や条件に、謙虚な姿勢で立ち向かう美しさを今思います。